

長岡市・和島村合併協議会
第2回新市建設計画策定小委員会次第

日時：平成17年1月13日（木）

午前11時から

場所：長岡市役所第3委員会室

1 開 会

2 新市建設計画について

3 地域別整備・活動方針について

4 意見交換

和島地域の地域別整備・活動方針による新市のまちづくりについて

5 その他

6 閉 会

1. 新市の競争力

新市の都市競争力 : 新しい発想力やチャンスを支援する力

地域特性から生まれた匠の技と、新しい試みへの積極性から、新市独自の多様な力を発揮します

立地を活かした積極的な活動が行われています

新市における出荷額の推移では、一般的には減少しているものの、新潟市と比べると減少率は小さく、全国的な低迷の中で、企業努力が図られ健闘しているといえます。

特に、三島町、越路町、中之島町では、新潟県全般で減少する中において、出荷額が伸びています。事業所数の減少は、製造業における物流拠点の統廃合や工場生産の効率化等、近年の企業活動動向によるもので、一概に産業の不振を表すものではありません。

新市の製造業は多様性が高く、新たな産業分野への取り組みも活発に行われています

新市製造業の特徴としては、精密機械、一般機械、鉄鋼、家具・装備品、衣服などの多分野で特化状況が高く、多様性の高さが見て取れます。

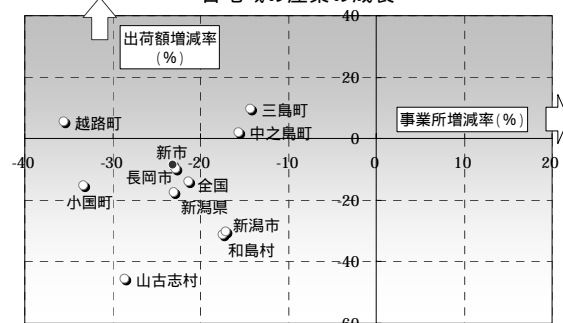
また、県内における従業者数のシェア（割合）が高く、雇用の受け皿が大きいことが分かります。

「長岡産業デザイン研究会」などの異業種交流会では、新製品の開発・研究に取り組んでいます。多様化するニーズへの対応や新しい企業経営に向けた活動が、積極的に行われています。

「長岡産業デザイン研究会」の活動風景

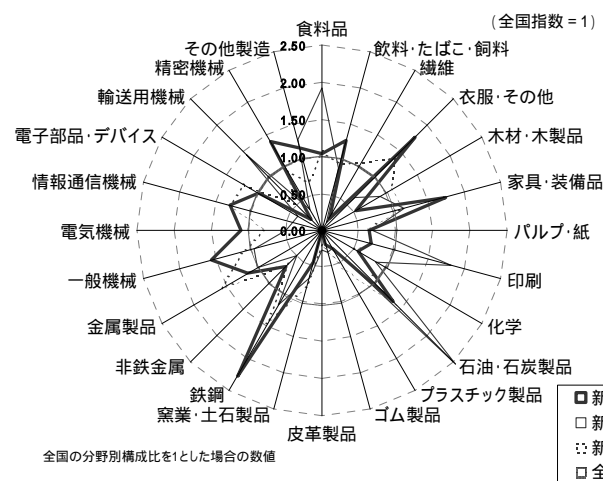


各地域の産業の成長



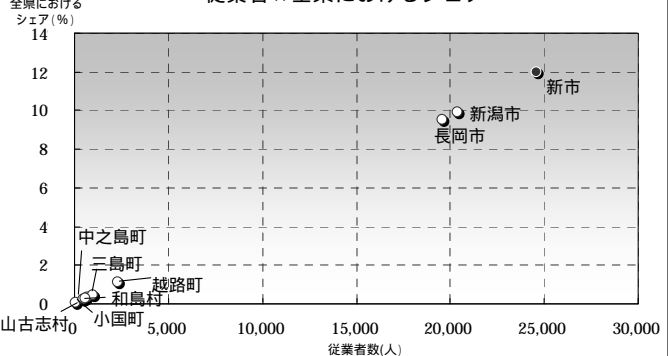
資料：平成 14 年 工業統計

産業中分類別・事業所数特化係数



資料：平成 14 年 工業統計

従業者 × 全県におけるシェア



資料：平成 14 年 工業統計

**新市の都市競争力 :
人づくり・まちづくりから
都市の魅力を高める力**

地域の暮らしの視点からの発想は、
新市の人づくり・まちづくりにつな
がり、まちの魅力を高めます

**にぎわいのある魅力的なまちづくり
につながる、人づくりを進めています**

中心市街地では、商店経営を目指す
意欲的な商業者の卵たちが、チャレン
ジショップ「リード・ブロー」で、周辺
の先輩商店主からのアドバイスのもと、
経営のノウハウを学びながら独立
開業を目指しています。チャレンジシ
ョップを巣立った人たちによる個性
的で魅力あるお店が、まちなかに新し
い風を吹き込んでいます。

**新市の商業ポテンシャルは、非常に
高い可能性を持っています**

新市の小売業1店舗当たり販売額
及び小売吸引力は、全県において高い
水準にあります。合併による一体的整
備や商圈の広域化、小売吸引力の強化
等、現在でも高い吸引力を示している
長岡地域では、さらに求心力が高まる
ことが期待されます。

また、販売額構成比では、衣服や身
の回り品といった身近な商品の割合
が全国平均を上回っており、地域の小
売業の特徴が表れています。

小売吸引力とは、その地域が他の地域か
ら、どの程度購買力を吸引しているかを相
対的に示す係数で、

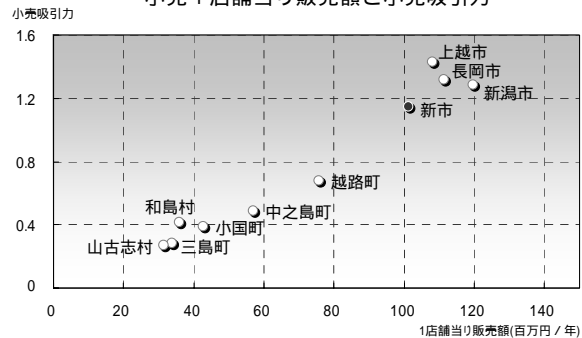
商業人口 > 行政人口の場合、1.0以上、
商業人口 < 行政人口の場合、1.0未満。

小売吸引力 = 市民1人当たりの販売額
/ 県民1人当たり販売額

中心市街地でのチャレンジショップ開店

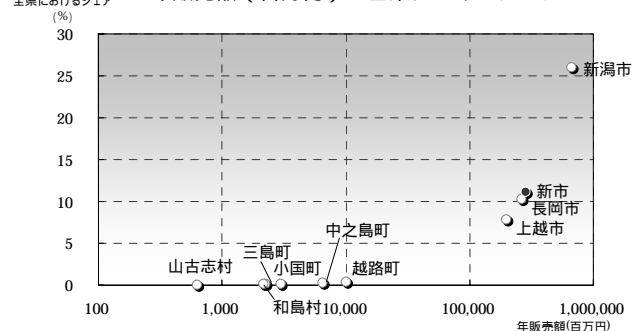


小売1店舗当たり販売額と小売吸引力



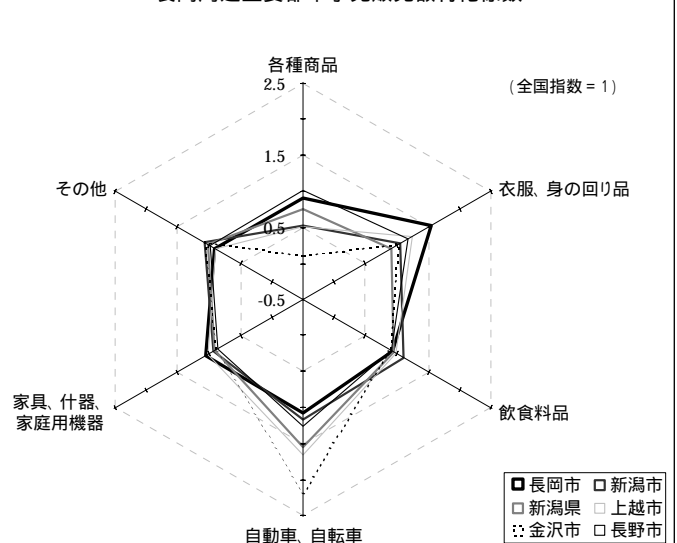
資料：平成14年 商業統計

年販売額(百万円) × 全県におけるシェア



資料：平成14年 商業統計

長岡周辺主要都市小売販売額特化係数



全国の分野別産業構成比を1とした場合の数値

資料：平成11年 商業統計

新市の都市競争力：
地域の底力、米の生産力は
地域ブランドを後押しする力

新潟県を代表する農産物でもある米の生産力の高さは、ブランドを育てるパワーの源となっています

地域を代表する農産物は、人々の交流、観光や食品産業などの振興にもつながっています

自然豊かな田園景観や地域資源を活かしたグリーン・ツーリズム事業などにより、都市との交流が活発に行われ、体験交流による観光振興、農産物ブランド育成や食材PRにつながっています。

新市で収穫される米は、新潟県全体の消費量の約4ヵ月分です

新潟県を代表する農産物である米の粗生産額は新潟市を上回り、新市を構成する市町村のうち6町村で県平均を上回っています。

新市で収穫される米(水稻)の量は、1人当たりの年間消費量で換算すると、1年間に約86万人が消費する量に相当します。

米を中心とした産地力の高さは、地域の底力

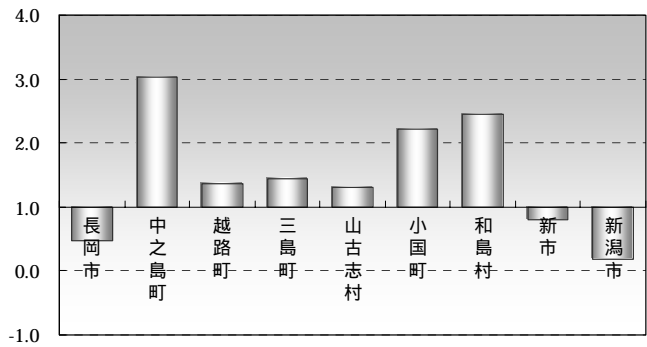
新市の農業粗生産額は、新潟市を上回り、1戸当たりの増減率でも新潟市を上回る地域があります。

また、一部のカントリーエレベーターでは、人工衛星によるタンパク含有量予測値をもとにサイロ別仕分けや、減農薬・減化学肥料の特別栽培米などの貯蔵ができ、米は地域の底力として、地域らしさ・ブランド力を育てていく力となっています。

「グリーン・ツーリズム事業」で都市と農村の交流

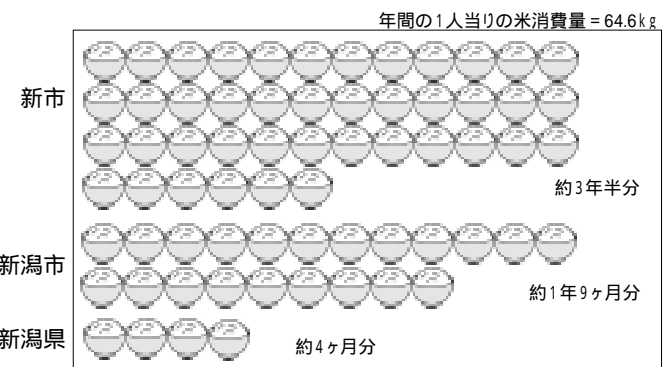


人口当り米粗生産額（県値=1指数）



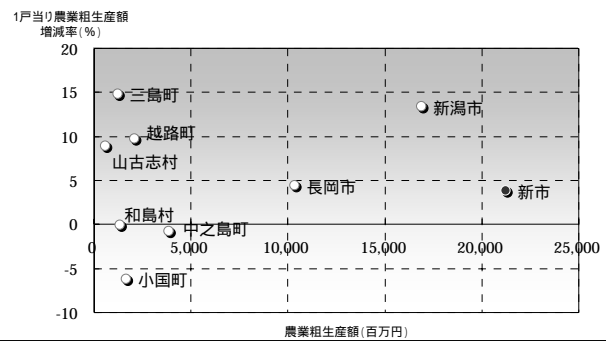
資料：平成14年 農業産出額及び生産農業所得

新市でとれるお米は何年分？



資料：平成15年 水陸稲生産統計及び耕地面積統計（北陸農政局新潟統計情報事務所）
 米麦データブック2002（食糧庁）

農業粗生産額 × 1戸当り農業粗生産額増減率



資料：平成10年、平成14年農業産出額及び生産農業所得

2. 新市の暮らしやすさ

新市の暮らしやすさ：
人と自然にやさしい環境を
地域で守り育てる力

都市の利便性と自然の恵みを受けた新市は、暮らしやすさを伝えていくことにも注目しています

污水处理における環境に対するやさしさは全国・県平均以上、住民主導の取り組みも進んでいます

新市の環境に対するやさしさを見る指標の一つとして、污水处理施設整備率をみると、全国や新潟県の平均を大きく上回っています。

さらに、NPO 法人「地域循環ネットワーク」等では、学校や保育園などから出される調理残さをボランティアで収集し、家畜の飼料として再利用するリサイクル活動を行うなど、循環型社会の構築に向けての活動が住民主導で行われています。

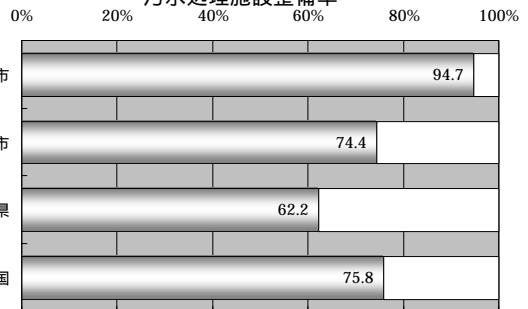
「犯罪」、「交通事故」で新潟県の平均を下回っています

新市の住民の「安全・安心できる暮らし」を支えていく力を「犯罪」、「交通事故」という住民生活を脅かす出来事からみると、新市の「犯罪」発生の度合いはとても低く、住民が安心して暮らせる環境にあります。また、「交通事故」の発生度合いは、全国平均、新潟県平均を下回っており、安全で安心した住民の暮らしを守る力、支える力があるといえます。

NPOによる環境への取り組み

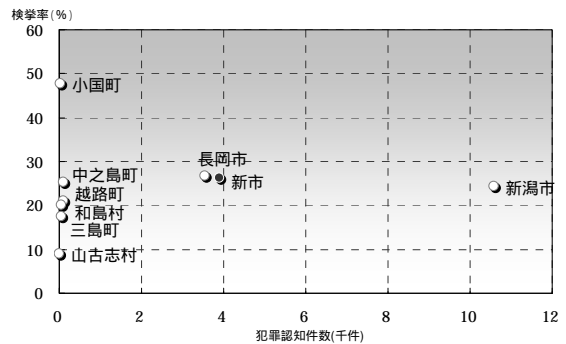


污水处理施設整備率



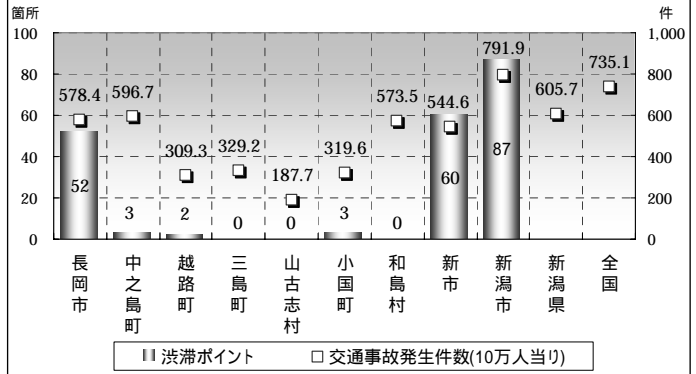
資料：平成 15 年版 新潟県統計データハンドブック
 平成 14 年度 国土交通省、農水省、環境省提供
 污水处理施設整備事業とは、下水道、農・林・漁業集落排水施設、コミュニティ・プラント、その他集合処理施設及び合併処理浄化槽の処理人口の割合

刑法犯罪認知件数と検挙率



資料：新潟県統計年鑑
 平成 12 年 新潟県の犯罪（新潟県警察本部）

渋滞ポイント数と 10 万人当り交通事故件数



資料：国土交通省北陸地方整備局提供
 交通年鑑（新潟県警察本部）

3. 新市の人を育てる力

**新市の人を育てる力：
地域の暮らしを大切にして
地域の中で広げる力**

地域の視点を地域の中で最大限に活かしているから、継続力のある活動が着実に根付いています

地域に根ざした住民主導の活動が特徴であり、強さです

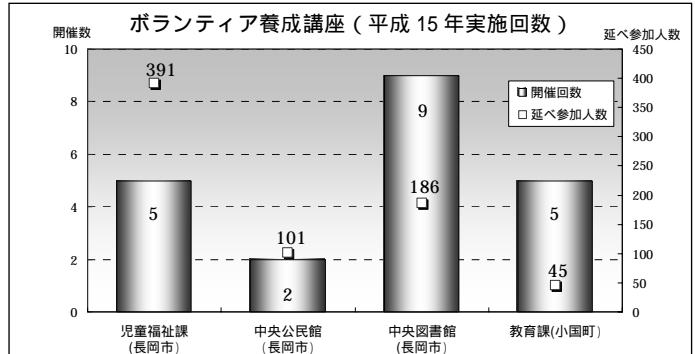
「咲かそう花を、育てよう緑を」をキャッチフレーズに、花と緑で住み良いまちづくりと心豊かな人材を育てる運動の輪は、年々広がっています。現在では、200もの市民ボランティアや緑化団体が公園や街路、また保育園、幼稚園、小・中学校、事業所の花壇に、約8万本の花を植えて管理しています。また、毎年5月には「花いっぱいフェア」も行っています。

住民自らが生涯教育を支え、人を育てることを重視しています

生涯教育を支える力となる、ボランティア養成講座の平成15年度実施回数は、長岡市、小国町において、計21回となっています。

行政出前講座を合わせると、年間で100回ものボランティア活動支援が行われています。新市では、こうした住民視点の地域に密着した活動が活発に行われています。

市民ボランティアによる「花いっぱい運動」



ボランティア養成講座の内容

市町村	主催	講座名
長岡市	児童福祉課	ファミリーサポートセンター会員養成講習会 サークルリーダー研修会
	中央公民館	ボランティア体験講座 紙芝居ボランティア講座
	中央図書館	読み聞かせボランティア養成講座
小国町	教育課	子育て支援ボランティア養成講座

行政出前講座の実施状況

市町村名	開始年度	平成15年 実施回数	内容
長岡市	平成13	89	健康、子育て、生活、観光、産業、スポーツ、情報公開
小国町	平成12	10	伝統文化、福祉、くらしと下水道、パソコン

施設ボランティアの実施状況（平成15年度）

市町村	施設ボランティアの活用している施設と登録人数						合計 人数	ボランティア 養成講座	行政出前講座 の実施回数
	公民館	図書館	体育館	博物館	青少年 教育施設	その他			
長岡市	19	37			1	11	68	16	89
中之島町							0		
越路町	3						3		
三島町							0		
山古志村							0		
小国町		4					4	5	10
和島村							0		
新市	22	41	0	0	1	11	75	21	99

資料：長岡地域合併協議会事務局調べ

4. 新市の交流する力

新市の交流する力：
豊かさと多様性の高い地域資源
交通利便性の高さによる拠点力

広域交通の利便性が高く、豊かで多様性の高い地域資源を最大限に活かせる環境があります

北陸において、新市は交通結節点、要衝としての位置づけが高い

関越道の長岡インターチェンジ、北陸道の中之島見附インターチェンジの出口取扱い台数は、他のインターチェンジと比較して高い状況にあります。

また、新市の各地域から高速道路インターチェンジへのアクセス時間をみると、約30分以内となっており、物流や観光活動などにおける広域交通の利便性は高い状況にあります。

四季折々の自然景観から、多様性の高い観光活動を提供しています

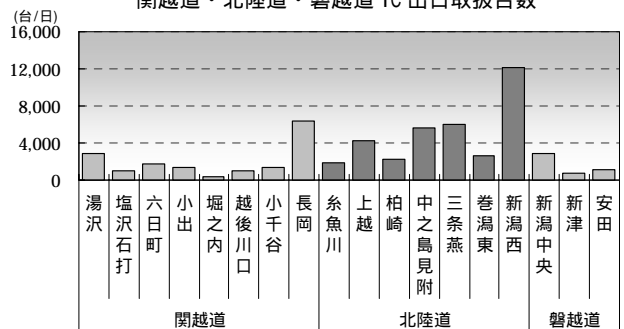
新市の観光入込み規模は、新潟市の約半分程度ですが、近年では県外の訪問客が急速に伸びている地域もみられるなど、さまざまな地域特性や資源を活かした多様な観光活動を提供しています。

四季折々に美しい景観美を見せる棚田の風景は、日本景観学界現地研修会会場にも選ばれるなど、学術的な評価も高いものです。

学術的にも貴重な「棚田の景観」

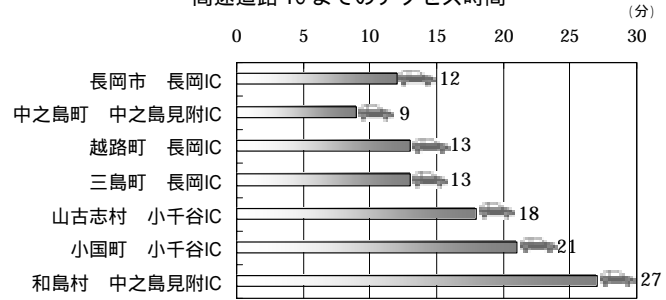


関越道・北陸道・磐越道 IC 出口取扱い台数



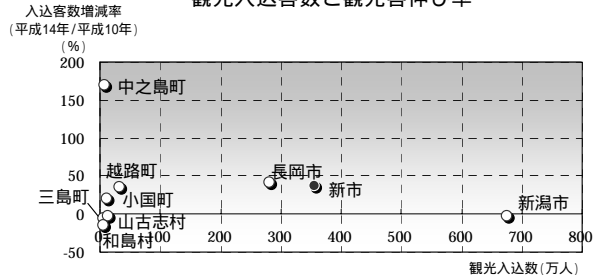
資料：平成15年 JH新潟支社提供

高速道路 IC までのアクセス時間



資料：平成15年度 長岡地域振興計画

観光入込客数と観光客伸び率



県外観光入込客の推移

	県外観光客数(人)		増減率(%)	県外客割合(%)	
	平成10年	平成14年		平成10年	平成14年
長岡市	392,300	570,510	45.4	19.9	20.3
中之島町	360	4,930	1,269.4	1.4	7.3
越路町	111,340	75,780	31.9	46.7	23.5
三島町	9,410	9,120	3.1	16.1	16.5
山古志村	35,590	47,160	32.5	25.9	35.4
小国町	3,940	17,910	354.6	3.9	14.9
和島村	37,020	31,600	14.6	54.8	55.3
新市	589,960	757,010	28.3	22.7	21.3
新潟市	1,161,730	1,486,530	28.0	16.8	22.0
新潟県	32,329,750	29,791,590	7.9	41.2	39.5

資料：平成14年度 新潟県観光動態の概要

新市の交流する力：
人を育てる土壌と知恵を、
語り、伝えていく継続力

地域に伝わる知恵を語り伝えていく土壌は世代間交流につながり、地域に活力を育みます

地域に開かれた学校に代表される独自性の高い交流は、人を育てる土壌となっています

新市には、地域の人々が先生となり、自然や伝統文化などを教える総合学習を積極的に行っていく土壌があります。先人の知恵の重要性を理解し、次代を担う子どもたちへと継承していくことを大切にする心と仕組みが根付いているのです。

また、このような地域と学校が一体となった教育環境づくりは、世代間の交流も活発にしています。

新市では、他市町村からの流入は減少していますが、地域内の交流は増加傾向にあります

新市における通勤通学流動では、構成6町村から長岡市への通勤通学流入人数は増加する傾向にあり、地域内の交流が活発化していると推測されます。

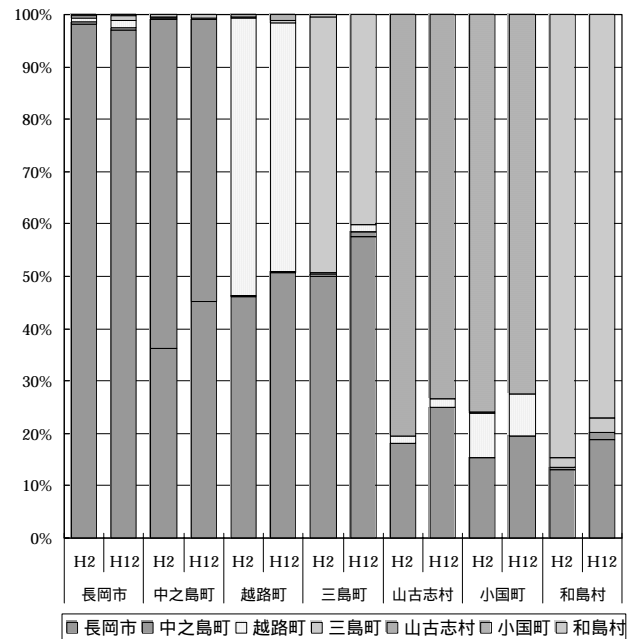
通勤通学圏域は、新市を構成する7市町村を越えて広がりを見せており、新潟県において、雇用や教育の受け皿としての位置づけの高さを表しています。

新市では、地域全体が一体になり、広域を対象とした事業や整備を進めることができることから、地域交流は今後一層の広がりを持つ可能性があります。

「地域に開かれた学校」は人を育てていく大切な財産

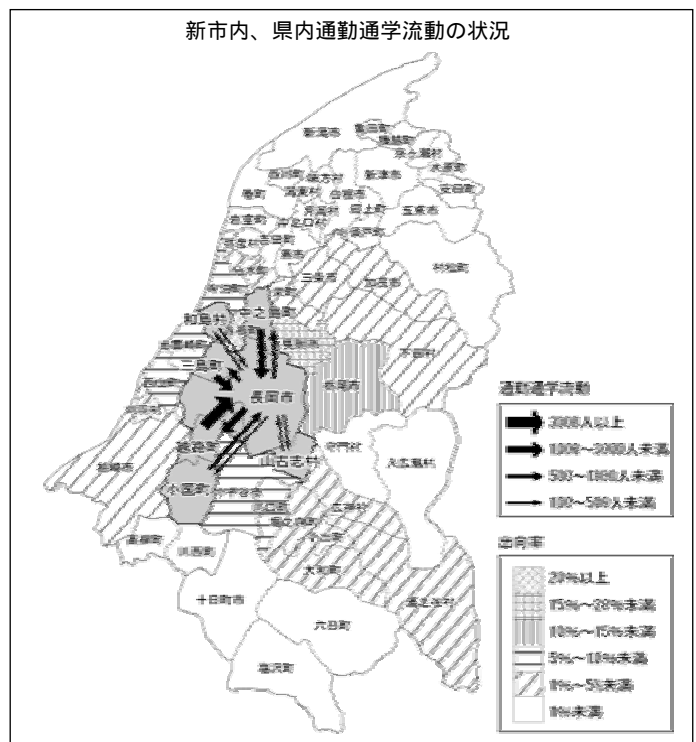


新市内の通勤通学流動の状況



資料：国勢調査

新市内、県内通勤通学流動の状況



資料：平成12年 国勢調査

新市の交流する力
地域から、世界まで
新しい視点は新しい力を生む

地域の人を育てる心とパワーが、生活圏の拡大に伴い、新しい次元へと向かっています

新市になり、さらに国際交流の幅が広がります

長岡市における国際交流は、主に青少年を対象に、姉妹都市・友好都市交流であるアメリカフォートワース市、ドイツリアー市・バンベルク市との間で訪問・受け入れ事業を実施してきました。昭和62年にフォートワース市との交流を開始して以来、延べ3,700人の市民が行き来し、教育、文化、スポーツと幅広い分野で交流を続けてきました。また、和島村では住民の活動から西タイアラブ連合村(タヒチ)との交流が生まれ、現在も続けられており、今後は小国町の姉妹都市であるスイスロマンモティエ町との交流に加え、アジア諸国との交流も視野に入れて事業を展開します。また、新市における広域的な地域連携も深めながら受け入れ体制を整え、さらなる積極的な国際交流を推進します。

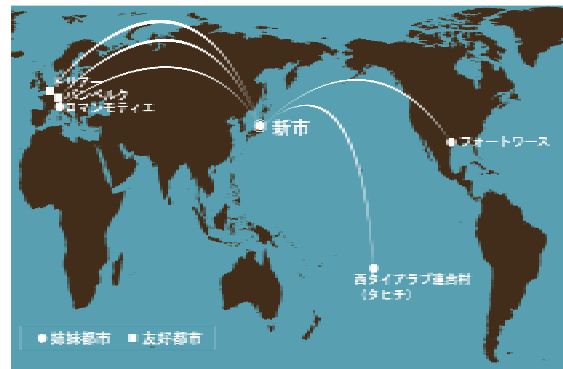
地域コミュニティの強さを活かした、全市的な活動への転換が期待されます

新市は、地域コミュニティの強さを持っていることもあり、市民活動の積極性がNPOなどの活動に現れにくいという実態があります。地域間交流が高まり、地域社会が広域化している中で、地域密着型のコミュニティ活動を基盤とした新市の市民活動は、活動範囲も内容もさらに幅を広げていく可能性があります。

小国町と友好関係にある武蔵野市から寄贈された貴重な本を収蔵している小国町愛蔵書センター

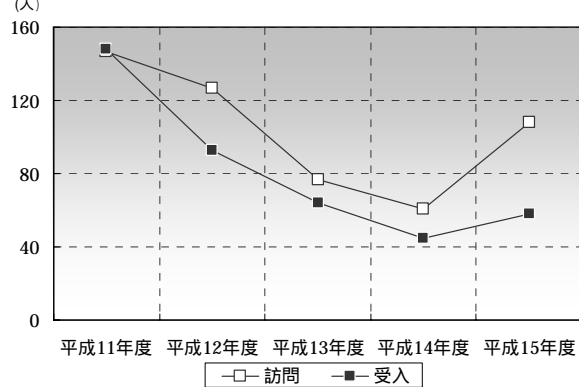


新市の「姉妹都市・友好都市」



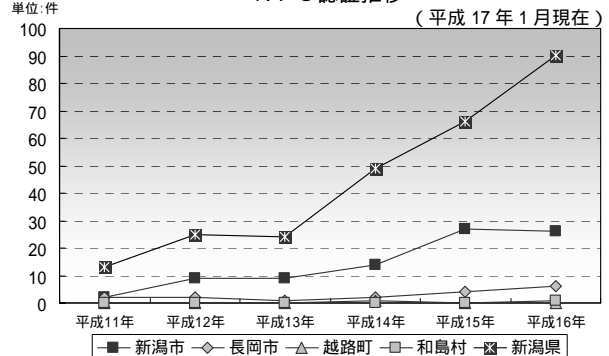
資料：長岡地域合併協議会事務局調べ

姉妹都市・友好都市交流状況(訪問受入の推移)



資料：長岡市国際交流協会
和島村役場調べ

NPO認証推移



資料：内閣府 NPO 関連ホームページ資料

「和島地域の夢」検討の流れについて

「和島地域の夢」の検討は、長岡地域新市将来構想策定時の手法と策定プロセス（将来構想 P51、52 参照）を踏襲し、以下の内容と流れで進めました。

検討内容

地域の資源・素材などを残らずあげる
 他の地域の資源・素材などを知る
 地域らしさ価値実現に向けた地域の役割を考える
 地域の役割を果たすための地域別整備・活動方針を考える
 新市の重点実現項目と、地域別整備・活動方針から各地域の活動展開のあり方を検討する。

検討の流れ

ステップ 1

地域の歴史・風土・住民活動などの整理
 地域資源の洗い出し
 新市における地域資源の活用方法検討
 地域のまちづくりに対する思いの抽出・絞り込み

『新市地域らしさ価値』

ステップ 2

「新市地域らしさ価値」実現に向けての地域の役割検討
 訴求点（強み）の展開
 「新市地域らしさ価値」を高める＜地域の強み（CAN）＞
 ＜方向性＞と＜実現すべき事柄（WILL）＞の整理

『重点実現項目』

ステップ 3

地域別整備・活動方針の検討
 地域別整備・活動方針毎の活動展開検討

6市町村企画総計・合併担当ワーキングメンバーの意見

ステップ 4

「和島地域の夢」素案とりまとめ

第 2 回新市建設計画策定小委員会で審議・策定

- 新市全体のありたい姿 - WANT

和島地域において

独創企業が生まれ育つ都市

～誠実さが生み出す「技」立国・新ながおか～

を高める方向性

- ・住民の活動を活かし、独創力や企業力を高める人間教育を行っていく
- ・新たなことにチャレンジする住民の人間力が生み出す地域活動を、ビジネスモデル開発に展開する

- 活用したい地域資源 - CAN

道の駅でのチャレンジ

地元で生まれ育つ NPO 法人の活動

安らぎを与える環境と人情

良寛終えんの地
菊盛美術館寄贈

ものづくり集団の芽生え

若手木工芸・竹工芸職人の技
食品加工（漬物など）へのチャレンジ
若手酪農家の取り組み
手作り民芸品創作活動

- 実現すべき和島の姿 - WILL

和島地域整備・活動方針

独創精神を支える 人間力養成モデル地域

- ・組織をつくってから進めるのではなく、地域で育まれた個個人の資質や技術のネットワークを活かし、多少のことではゆるがない柔軟かつ強固な組織形成のモデル地域を目指す

実現していくための活動・展開

見極める

地域で生まれた技・住民活動を発掘し、ビジネスモデル構築を模索する

発信する

和島特有の独創を生み出す活動の PR 展開・発信

育てる

NPO・個人起業家・ボランティア等の連携強化
総合学習や地域活動などを通じた「独創・起業」の心を育てる活動

- 新市全体のありたい姿 - WANT

和島地域において

元気に満ちた米産地

～まごころ米の生まれる里・新ながおか～

を高める方向性

- ・人・生活・風土を育んできた歴史風景としての田園と、経済としての農林業の両立
- ・農林業を営む心のあり方を新ながおかにアピールしていく

- 活用したい地域資源 - CAN

味が自慢のわしまの米

自然に恵まれた優良農地

こだわりの農産物

集落で考える農業システムづくり
地域固有の食材づくり

伝統産業としての酒づくり

まぼろしの酒米復活とコシヒカリ米の酒造り

販売交流活動

道の駅「地域交流センター（もてなし家）」、いきいき市場
自然薯栽培組合の取り組み

- 実現すべき和島の姿 - WILL

和島地域整備・活動方針

人間力と相互信頼が創り出す 自然体農林業生産地域

- ・自分たちが楽しみながら作り、食べ、人と人のつながりで産物を提供する活動を継続していく

実現していくための活動・展開

見極める

大区画ほ場・中山間地活用による適地適作集落営農システムづくり
住民による徹底した地場産物提供基地づくり

発信する

体験交流イベントによる和島のこだわり食品・食材の魅力発信

育てる

地場産物直売戦略をつなげる市民活動団体・参画農家の育成

- 新市全体のありたい姿 - WANT

和島地域において

世代がつながる安住都市

～未来人を育む資源博物館・新ながおか～

を高める方向性

- ・心の時代に対応した人間教育や、さまざまな生活・人生のあり方を重視した教育システムづくりを目指す
- ・世代間交流を発展させ、世代間共生のあり方を模索し、伝え続ける

- 活用したい地域資源 - CAN

伝統的な地域コミュニティ活動

- 六夜祭弓踊り保存活動
- 集落に残る「連中」の活動

教育への新たなチャレンジ

- 幼・保一元化教育の継続
- 地域一体「共育の里」づくりの取り組み
- ラビットファームの活動
- すずかけ農場・兎ヶ丘奉仕活動

安らぎを与える環境と人情

- 木村家が伝える良寛安住の地
- 良寛終えんの地
- 菊盛美術館寄贈

工房ゆきわりの活動

- 実現すべき和島の姿 - WILL

和島地域整備・活動方針 「良寛安住の心」を守り伝える 平和の里

- ・伝統的なコミュニティ活動や、良寛が安らいだ風土（人間・環境）を地域で守り伝える活動の推進

見極める

世代間共生のモデルとなる地域づくりの推進
良寛の心と、それを受け入れた地域の心を学び伝えるシステムづくり

発信する

癒し環境と田舎ぐらしの楽しさ発信

育てる

世代を超えた教育・福祉の連携強化

実現していくための活動・展開

- 新市全体のありたい姿 - WANT

和島地域において

世界をつなぐ和らぎ交流都市

～「人」「ものがたり」「競和国」・新ながおか～

を高める方向性

- ・市民一人ひとりが創る、手づくりの交流地域を目指す
- ・和島地域だけで味わえる交流体験づくり

- 活用したい地域資源 - CAN

歴史がつなぐ心の交流

- 良寛と地域
(良寛と木村家の交流に見る手づくりのもてなし)
- 良寛と貞心尼
(出逢いと心の交流の風土)
- 良寛と現代人
(スイスから良寛を慕いて...)

住民から生まれたタヒチとの交流

手づくりの道の駅

NPO が運営する、築 170 年の移築古民家
「地域交流センター（もてなし家）」

- 実現すべき和島の姿 - WILL

和島地域整備・活動方針 一期一会の心を大切に 自然体の交流地域

- ・安らぎ、癒しに関連する交流資源の発掘と蓄積
- ・住民一人ひとりの一期一会を、恒久的な地域の交流に育てていく仕組みづくり

見極める

住民の一期一会を地域で共有する仕組みづくり
見返りを求めないふれあい交流活動の実践

発信する

道の駅を活用した手づくりの交流活動の発信

育てる

良寛文化など、地域の歴史を学びなおす仕組みづくり
地域文化や一人ひとりの生活を素材とした国際交流の地域づくり

実現していくための活動・展開



地域の夢

和島地域

「新市地域らしさ価値」を高めるための和島地域の方針と活動

和島地域は、こんなところ

■和島村の成り立ち

和島村は新潟県のほぼ中央部、日本海側に位置し、周辺をなだらかな丘陵に囲まれ、中央部を島崎川、郷本川が南西から北に貫流し、これを取り巻くように平野が広がり、主要な集落や豊かな水田地帯を形成しています。南東部の丘陵地帯は、県下でも有数の人工林地帯「三島林業地」が形成され、この林地帯を縦断する形で三島林道が開設され、中部北陸自然遊歩道にも指定されています。

和島村の歴史は非常に古く、海・山・野の幸に恵まれたこの地域には、旧石器時代、今から1万年以上も前から人が住んでいたと言われており、平成2年に八幡林遺跡から出土した「沼垂城」の木簡は



奈良時代前期のものと判明し、国の要衝の地として栄えた地域との可能性も指摘され、今後の調査に期待がかけられています。

鎌倉時代には、日蓮上人の高弟・日昭上人を開祖として妙法寺が建立され、北越布教の中心となりました。明治44年には当村出身の久須美秀三郎・東馬親子が2代にわたりその私財を投げ打ち、越後鉄道株式会社を設立し、現在のJR越後線の前身、白山・柏崎間の鉄道を開通させました。

■良寛・貞心尼出逢いの地、良寛安住の里

地位や名誉を一切捨て、乞食僧として真の仏法普及を自らの使命とした聖僧良寛が晩年安住の地として和島の木村家に身を寄せ、貞心尼と出逢い、住民との温かい交流の中で人生の彩りを深めた平和の里です。良寛が愛した原風景と人情に出逢える里です。良寛の里

和島地域の方針と活動 (右頁参照)

和島地域において「新市地域らしさ価値」を高めるための方向性と、活用したい地域資源(地域の強み)から検討した、将来実現すべき地域の姿(整備・活動方針)と実現のための活動・展開を提示します。

美術館をはじめとし、晩年身を寄せた木村家、「良寛禅師墓」と銅像のある木村家の菩提寺隆泉寺等、良寛ゆかりの名所が多数あります。日本全国はもとより、海外からも良寛を慕い多くの良寛ファンが訪れています。

子供たちには良寛に親しみ、逸話から徳を学び、人を愛する心を培っていただきたいという願いと、明治、大正、



昭和、平成と激動の時代を生き抜いてこられた高齢者のみなさんからは、人間として尊厳を持った幸せな晩年を送ってほしいという願いから教育と福祉の融合さらに新たな教育の創造を目指し、子供達には「人を思いやる心」「お年寄りを敬う心」「人を愛する心」を、また、お年寄りには「生きる喜びの醸成」を機軸とし、それぞれがお互いに享受されるというような相乗効果を期待し、教育と福祉それぞれに生活する方々が共に育むという精神の醸成を目指す事業の検討を行っています。

■感動発見、やさしさ体験フィールド

日本海の美しい夕日と緑豊かな自然に出会える贅沢フィールド和島オートキャンプ場、食べてびっくりおいしいお米と新鮮野菜、情熱とやさしい自然が創り出す和島ブランドのお酒、古代のロマンが花咲く遺跡の宝庫、素朴な人柄同士が縁結び、タヒチとの国際交流、一期一会の出逢いの中で終生忘れることのできない感動とやさしさを発見できる和島です。

もっと詳しく地域の力

和島地域

和島村は、多自然型居住地域としてこれから益々期待できる地域です。今ブームの本物志向の人たちに、適度な便利さと適度な不便さ、適度な賑わいと適度な静けさ、最先端の情報と悠久の時間の流れが共存し、時空と時空が交わるタイムスリップ空間、人生の楽園候補地としての魅力づくりに励んでいます。

■「ふるさと温故知新」のむらづくり

「スローフード・スローライフ」運動に代表されるように、今まで古臭いとみなされ、時代遅れだと捨てられてきたものが今見直され始めています。自分たちの足元を今一度見つめ直すことから始めようという「ふるさと温故知新」の精神をむらづくりの基本理念としています。ここに住む住民が自身を取り巻く自然・環境・諸物との調和を大切に、感謝の気持ちを持ち続けながら、与えられた生を人間として尊厳のある充実したものとするために、真の幸福とは何かを今一度問い直し、足るを知り、こころを平らにし、気をやすらかにして、穏やかに暮らしていけるような平和な里づくりを目指して様々な取り組みにチャレンジしています。



■道の駅 良寛の里 わしま

良寛さんの直筆の書等が鑑賞できる「良寛の里美術館」やロダンや高村光太郎の作品が鑑賞できる「菊盛記念美術館」等が設置された従来からの静かな癒しの空間に付け加えて、子供から大人まで楽しめる賑わいの空間「ふれあい広場」や古民家を移築再生した「地域交流センター（もてなし家）」が整備された。隣には、国土交通省により24時間利用できる「道路情報ターミナル」と大区画の駐車場が整備されている。NPOスタッフよるこころのこもった「もてなし」が待っている。



■和島オートキャンプ場

日本海を見晴らす丘に立つ和島オートキャンプ場。心地好い潮風、輝く緑、日本海を染める夕日、満天の星。海辺の自然があなたのキャンプステージ。ここを拠点に海水浴をするもよし、史跡めぐりをするもよし。さわやかな海辺の休日演出できるフィールド。



■住雲園と久須美秀三郎・東馬親子

曾我十郎祐成の子孫、16代当主久須美六郎により1717年に築造された名園。巨岩、奇石は各地の名産を集め、遠く弥彦山を望んだ借景の美は訪れる人のこころをとらえる。名付け親は大窪詩仏。17代当主はJR越後線・弥彦線の創始者久須美秀三郎である。子供の頃勝海舟に学び、和漢の学問を好み、進んで小学校を開いて子弟の教育にも努めた。渋沢栄一、前島密らと北越鉄道の創立にも奔走し、弥彦公園の開発にも尽力。小島谷駅に父の秀三郎像、弥彦公園には子の東馬像が建てられ顕彰されている。



■ラビットファームの活動

島田小学校を中心とした周辺地域の花好きの人、自然大好き人間の集まりが母体となり、学校の子供たちも巻き込んで、休耕田や山林等の自然を教材とした様々な活動を展開している。写真は小学校4年生がラベンダースティック作りを体験学習している様子。山林歩道の整備、道路沿道に花を植える活動、秋の収穫祭、自然体験学習の指導など、子供も大人も楽しみながら実施している。